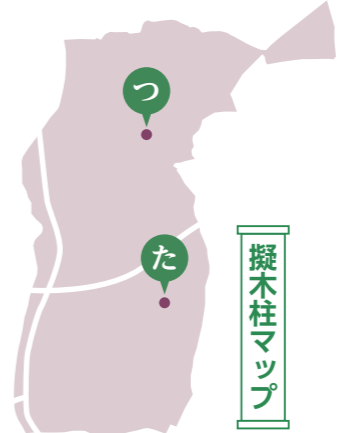




# 海老名郷土かるた

## ことしは「た」「つ」「どし

市内に点在する史跡や文化財などを詠んだ「海老名郷土かるた」から、ことしの干支の「た」「つ」の札にまつわる話を紹介します。由来の場所には歌が書かれた擬木柱があります。



擬木柱マップ

### 「海老名郷土かるた」ダウンロード版

市ホームページに印刷用ファイルを掲載しています。印刷・作成して遊びましょう。



郷土かるたページ

### 椿地蔵とツバキ

約300年前のある日、病を抱えた娘が母と共に杉久保にいる將軍家の主治医を目指して江戸をたちました。たどり着く途中で容体が悪化し、診察を受ける前に亡くなってしまいました。

村人たちは娘を弔って地蔵堂を建て、傍らにツバキを供



玉椿

咲かずに落ちる

地蔵堂

えました。ツバキの一枝が根付いて成長しましたが、不思議とつばみのまま花を咲かせず落ちてしまうようになりました。娘の心がツバキに宿ったのだらうと、いつしか村人たちは信じるようになりました。

【擬木柱所在地】杉久保南4、椿地蔵バス停付近

### 玉椿

椿地蔵のツバキは現在樹齢約300年。市の天然記念物に指定されています。花を咲かせることなく、つばみのまま落ちてしまうことから「玉椿」と呼ばれています。実際には遺伝子の異常によるものと考えられています。

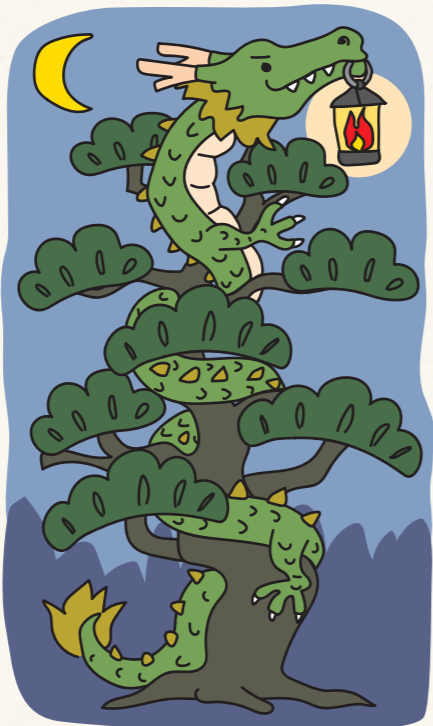
## 海老名むかしばなし 竜灯の松

問シタイプロモーション課 ☎(235)4574

伝説や民話など、市にはさまざまなむかしばなしがあります。ことしの干支にちなみ、「竜灯の松」のおはなしを紹介します。

国分「お観音さま」とも「水堂」とも呼ばれている清水寺があります。現在は、龍峰寺と一緒になっています。この清水寺の仁王門の前に今から百年ぐらい前まで大きな素晴らしい松がそびえ立っていました。「竜灯の松」と呼ばれたこの松にまつわる話を紹介します。

清水寺からそれほど遠くない所に目久尻川をせきとめてつくられた滝がありました。この滝に一匹の竜が住んでいました。竜は夜になると清水寺に行き、大きな松の一番高いところに、仏様の教えをしめす明かりをあげて、お観音様につかえていま

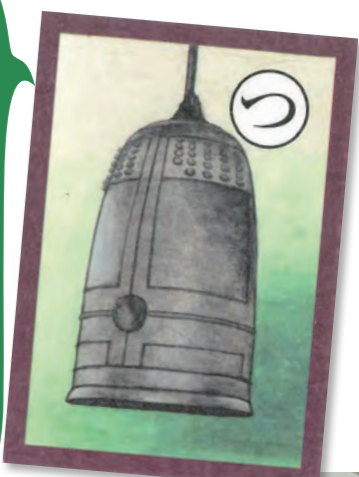


した。村人は、毎夜この松にあがる明かりを見て、喜び、この松を「竜灯の松」と呼んで大切にしました。竜灯とは、竜の灯という意味です。

ある年のことです。茅ヶ崎の漁師が漁に出たところ、天気が急に変わり大あらしになってし

まいました。舟は沖へ沖へと流されていくので、漁師は一生懸命こいで陸地に戻ろうとするのですが、自然の力にはかないません。そのうちとうとう夜になってしまい、どの方向に舟をこいでいい

たらよいかわからなくなりました。漁師はこぎ疲れて舟の中に倒れてしま



### 釣鐘は 国分季頼の 銘残す

### 国分寺の銅鐘

正応5(1292)年、海老名氏の一族である国分季頼(源 季頼)が国分尼寺に寄進したものです。作者は、銘文から鎌倉市円覚寺などの洪鐘を手がけた名工・物部国光と分かっています。現在は国分寺境内にあり、国指定重要文化財に指定されています。

海老名氏

海老名氏は村上天皇の流れをくむ源氏一族という説があり、本市との関連は源有兼が相模守として在任したことからといわれます。子孫の季貞は鎌倉時代の歴史書に名を遺す名武将です。海老名氏の菩提寺があったと伝わる河原口には、彼の愛称「源八さん」と親しまれる霊堂があります。



### 国分寺銅鐘 重要文化財指定 100周年記念企画展を開催

海老名市温故館で企画展を開催しています。詳細は、教育総務課 ☎(235)4925 へお問い合わせください。 2月25日(日)まで(年始は1月4日(木)から) 9時〜17時15分(入館は16時45分まで)

いました。すると夢の中に、日ごろ信仰していた水堂の観音様がお姿を現され、「わたしがあなたを助けてあげます。この松の明かりを指して、こいできなさい」と竜灯の松を示しました。 ぱっと目をさました漁師は、ありがたい観音様の教えだ、と勇気を奮い起こして、はるか北に見える竜灯の松を指してこいでゆき、陸地につくことができました。 今は竜灯の松のあともありませんが、竜灯の松をえがいた大きな絵馬や記念碑が残っています。(こどもえびなむかしばなし 第1集より。第1〜4集を中央・有馬図書館で貸出) ※一部編集しています。



### 海老名むかしばなし

販売中

市役所地下売店で、「海老名むかしばなし」第2〜9集を各300円で販売しています。昭和53年〜平成14年の広報えびなに掲載した伝説・実話など約450話を再編集したものです。

